

いじめや人権について考える

昨日、生徒会本部の長谷部陽太さんと田中緋織さんが、1月に参加した全国いじめ問題サミットの報告をしました。二人は中学生が取り組んでいる6つの発表を聞き、いじめの原因を考え何ができるかを話し合いました。二人は公津の杜中学校でもできることはあると考え、報告してくれました。これを聞いて、各学級でいじめや人権について、個人の行動目標やスローガンを決めたり取り組みたい活動などを考えました。いじめはいつでもどこでも起こりえます。本校の「いじめ防止基本方針」(ホームページ掲載)では、「一定の人間関係にある他の生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているもの」をいじめと定義しています。いじめは教室で起こりやすく、部活動やネットで増幅します。生徒会本部二名の報告では、いじめの原因は「人間関係のいざこざ、上下関係の立場、個性が認められない」などの意見があったとのこと。そこがきっかけになり、エスカレートするとこじれます。苦痛を感じたとき、相談できればいいのですが、相談するには勇気が必要ですし、簡単に誰にでも相談しにくいです。担任に話してもらいたいのですが、話しにくいこともあります。本校では、話しやすい先生に相談してもらい、その先生と一緒に考えていけるように、どの先生も心得ています。また、相談窓口や相談箱があります。声を出せる場の一つとして、「VOICE」を年5回(今年は4回)行っています。)行っています。先日「VOICE」を行ったところ、苦痛を感じている相談だけでなく、苦痛を感じている人がいる、よくないことになっている、話を聞いたがよくないと思う。などの声が複数上がりました。すぐに先生が話を聞いて一緒に考え、対応しています。周りで見ている人が黙らずに声を上げることができる。小さなことでも相談したり一緒に考えてほしいと言うことができる。公津の杜中学校ではそれができし、感じ取り、一緒に考えることができる生徒が少なからずいます。全国いじめ問題サミットでは、「認め合う心を持つ」「個性を認め助け合う雰囲気づくりをする」「いじめについて話し合い、よく考える環境づくりをする」という意見でまとまったと聞きました。いじめやいじめにつながることを意識して、行動ができる生徒がたくさんいる公津の杜中学校にしていきたいと思います。

公津の杜中の活動目標 ④「合唱」

一緒にすごしているみんなで合唱するという経験は、中学校で終わりという人もいます。人の歌声を聞きながら自分の歌声を響かせる。一緒に歌声を響かせ合う。この経験は今しかできません。特に中学生の時期は、成長や声変わりなどで、歌声が変化します。合唱を作り上げた経験を重ねた中学3年生が卒業する頃の合唱は、特にすばらしいです。大きな声で歌うことができない今、合唱は対策をとって取り組む必要があります。歌う場面が少なくなっているため、少ない時間を大切にしたいと思います。

上履きは持ち帰っていいの？

小学校では毎週週末に上履きを持ち帰り洗いました。中学校では、小学校で身につけていることとして、特にきまりにしません。昼の歯磨きも同じです。してはいけないということはありません。衛生上は考えてほしいことです。下校後に靴箱を見ると、下段に上履きが入っているのを数名見かけます。上履きと下履きが同じところに入っているのは、とても気になります。新型コロナウイルスは、靴について入ってくる可能性があるという聞きからです。よい習慣が命を守る。新しい生活様式は、こんな小さなことからスタートです。